

第3学年1組 算数科学習指導案

平成30年6月29日(金) 5校時

指導者 T1 尾崎 麻実

T2 近堂 恵子

1. 単元名 あまりのあるわり算 「わり算を考えよう」

2. 単元のねらい

- わり切れない場合の除法の意味や計算の仕方について、わり切れる場合の除法を基に、乗法との関連や具体物の操作などからとらえようとする。(関心・意欲・態度)
- わり切れる場合とわり切れない場合の除法を統合してとらえ、除法の意味や計算の仕方を具体物や図、式を用いて表現することができる。(数学的な考え方)
- わり切れない場合の除法の計算ができ、商や余りを求めることができる。(数量や図形についての技能)
- 余りの意味や余りと除数の大小関係を知り、除法について理解する。(数量や図形についての知識・理解)

3. 授業をするにあたって

- … <個人情報保護のため省略> …

- 研究の重点との関わり

【研究の重点イ：児童が考えたい学習課題の工夫】

- ・単元を通して、「ワル大魔神からの挑戦状」という架空の設定場面で進めていく。「ワル大魔神からの挑戦状」をクリアしていき、ゴールの宝箱をもらうことを目標に意欲を高めながら学習を進める。
(問題との出会わせ方)

【研究の重点ウ：話し合いを焦点化し、深めるための支援のあり方】

- ・自分の考えをもち、自分の言葉で式や答えの意味を説明したり、友だちの考えを代わって説明したりする活動を設定する。(対話的な場の設定)
- ・お互いの考えを全体場で共有することで、比較検討する。(多様な見方や考え方を共有する場の設定)

4. 指導計画(全10時間)

- 第一次 あまりのあるわり算(6時間 本時2/6)
- 第二次 あまりを考える問題(2時間)
- 第三次 まとめ(2時間)

5. 本時の学習

(1) ねらい

除数と商が1位数の除法で、わり切れない場合の計算の仕方を考えることができる。(数学的な考え方)

(2) 展開

学習活動と予想される児童の反応	教師の支援(○)と評価	
	T1	T2
1. 前時の学習を想起し、問題を確認する。		
チョコレートが14個ある。1人に3個ずつ分けると何人に分けられるかな。		
問題文の式を確認する。 $14 \div 3$	○宝箱をもらうために「ワル大魔神からの挑戦状」の問題を解く場面を設定し、解決への意欲をもつことができるようにする。	
2. 前時の学習で考えた答えの見つけ方について、ペアで紹介し合う。	○ペアで紹介し合うことにより、全員が自分の考えを伝えることができるようにするとともに、前時を想起できるようにする。	○児童の様子を見ながらペアでの話し合いが進むよう、支援をする。

学習活動と予想される児童の反応	教師の支援（○）と評価	
	T 1	T 2
3. 答えの見つけ方について，困ったところや疑問に思ったところを出し合う。 ・ 3 の段に答えがないからできない。 ・ どうやって答えを書けばいいか分からない。 4. 答えの見つけ方について，発表し合い，検討する。 ①全体場で発表する。 ○全体場でお互いの考えを伝え合う。 ○疑問に思ったことは，質問する。 ○友だちの代わりに説明する。 ・      ・ 4 人に分けられるけど，2 個あまる。 ・ わる数が 3 だから，3 の段の九九を使う。 $3 \times 4 = 12$ $3 \times 5 = 15$ 答えに 14 はないから，3×4 で考える。 4 人で 2 個あまる。 ・ $3 \times 5 = 15$ 1 個足りない。 ・ $3 + 3 + 3 + 3 = 12$ はじめの数が 14 個だから，2 個足りない。 ・ $14 - 3 = 11$ $11 - 3 = 8$ $8 - 3 = 5$ $5 - 3 = 2$ 3 個ずつ分けていくと，2 個あまる。 ②出てきた考えを比べ，話し合う。	○全員で困り感や疑問点を共有することで，協働で課題を解決しようとする意欲を高めることができるようにする。 ○発表する児童に，自分の考えが書いてあるノートを実物投影機で提示させ，教師がボードに確認しながらまとめていく。 ○いくつかの考え方を提示することで，多様な考え方に気付くことができるようにする。 ○自分の考えと比較しながら友だちの考えを聞き，疑問に思ったことは質問して考えを交流したり，説明に行き詰まった友だちに代わって説明したりすることができるようにする。	○児童の発表時に実物投影機を使って，児童のノートを提示する支援をし，発表する児童がスムーズに話せるよう手助けをする。
出てきた考えをくらべよう。		
○それぞれの考え方から共通点を見つけ出し，何人に分けられ，あまりはいくつかを確認する。 ・ 3 の段の九九が使えるそう。 ・ 余る数が 2 個だ。 5. 適用問題「ワル大魔神からのおまけの挑戦状」に挑戦する。	○児童の考えをまとめたボードを動かし，分類し整理する。 ○共通点から，3 の段の九九を使って答えを出すことや 4 人に分けられること，あまりがあることをおさえる。	
チョコレートが 23 個ある。1 人に 3 個ずつ分けると何人に分けられるかな。		

学習活動と予想される児童の反応	教師の支援（○）と評価	
	T 1	T 2
6. 学習の振り返りをする。	○わられる数が14以外の時でも3の段の九九が使えることを確かめる。	○児童の様子を見ながらつまずきのある児童に支援をする。
	【考】わり切れない場合の除法の計算の仕方について、既習のわり切れる場合を基に考え、適用題を解いている。（観察、発言、ノート）	
	○4つの視点によって振り返りをさせ、次時の学習につなげるようにする。	○児童の様子を見ながら、振り返りが書けているかどうか確認をする。

（3）協議の視点

【研究の重点イ：児童が考えたくなる学習課題の工夫】

○児童の興味を引くような架空の場面を設定したことは、意欲的な学習への取組につながったか。

【研究の重点ウ：話し合いを焦点化し、深めるための支援のあり方】

○ペアや全体での話し合いを行い、比較したり検討したりしたことは、多様な見方をしたり考え方を共有したりすることにつながったか。

（4）本時の評価

十分満足できる	概ね満足できる	支援を要する児童への手立て
わり切れない場合の除法の計算の仕方について、既習の除法を基に考え、具体物や図、式を関連付けながら、あまりに着目して説明している。	わり切れない場合の除法の計算の仕方について、既習の除法を基に、具体物や図や式などを用いて説明している。	話し合いの中で子ども同士をつなぐ支援をしたり、自分の考えを言えるよう、手助けしたりする。（T 2の役割）